

令和5年度 第1回 菊池市総合教育会議 (要点議事録)

○招集年月日 令和5年8月21日(月) 15時30分～

○招集場所 菊池市生涯学習センター「キクロス」 2階 大研修室

○議事日程

- 1 開 会
- 2 市長挨拶
- 3 議事録署名者の指名
- 4 議題
 - (1) 菊池市の教育の現状と今後の取り組みについて
 - ①学力について
 - ②体力について
 - ③不登校について
 - (2) その他
- 5 閉 会

○会議の公開、非公開又は一部非公開の別 公開

○出席委員及び欠席委員の氏名

[出席委員] 市長	江頭 実
教育長	音光寺 以章
教育長職務代理	生田 博隆
委員	森 智保美
委員	渡邊 和雄
委員	増永 幸一郎
委員	城 聡子

○出席職員

教育部	部長	村田 義喜
教育部	教育審議員	藤田 英明
教育部学校教育課	課長	倉原 桂一
教育部生涯学習課	課長	川口 克明
教育部社会体育課	課長	宮本 健
教育部	中央公民館長	吉川 良二
教育部	中央図書館係長	右田 雅裕
教育部学校教育課	課長補佐	岩根 貴史
○事務局	副市長	芳野 勇一郎
政策企画部	部長	北島 悠子
政策企画部市長公室	室長	中川 敬三
政策企画部市長公室	係長	中山 和徳

○傍聴者 なし

○議事内容

<p>議 題 【議長】</p>	<p>(1) 菊池市の教育の現状と今後の取り組みについて 議題 (1) 菊池市の教育の現状と今後の取り組みについて事務局より説明を求めます。</p>
<p>【事務局】</p>	<p>「学力」について説明</p>
<p>【議長】</p>	<p>それでは「学力」に関しましてのご意見、ご質問があれば、何かございませんか。</p>
<p>【委員】</p>	<p>以前の学習は、丸暗記が重視されていましたが、現在は学習したことをもとに次のことを作り出していく力が求められておりまして、教育委員会と学校が様々な取組をしていただいています。以前伺った海外の学校では人の意見を聞き、自分の意見もきちんと伝える教育がされていましたが、日本の子ども達の学習の様子は他者の意見を聞きながら自己の意見を発言し、さらに練り上げ高めていくことに弱さを感じます。この根底には家庭教育が関係していると思います。小さい頃から自己管理を身につけさせることが学力に大きく影響するという話もあります。子どもたちが自己の考えを持って先に進める教育が必要で、自分のことは自分でする家庭教育をもっと大事にすべきではないかと思います。</p>
<p>【議長】</p>	<p>ありがとうございました。 他の方はいらっしゃいませんか？</p>
<p>【委員】</p>	<p>最近の学校は、授業態度や環境が改善されており、子どもたちも落ち着いて勉強できていると感じます。先生方もお忙しい中にも子ども達の学力を高めるため一生懸命頑張っています。しかしながら結果を見ると学校の先生たちの思いがうまく行き渡っていないことが残念に思います。アンケート結果から、約2割の子どもたちは家で学習できていないことや、小学高学年から中学生はテレビゲームに時間を費やす傾向にあることがわかりました。本当はこれらの子ども達も勉強したい、わかりたいと思っていると考えていますが、家庭学習が十分に行われていないため、学校での取り組みが全体の結果に結びついていません。そのためには、そういった子ども達を中心に家庭学習を楽しめるような学習方法の工夫や保護者との連携が必要だと思います。安心安全メールなどを活用し、定期的に家庭学習の大切さや学習時間の連絡など、学校から保護者への啓発活動をしていただけたらと思います。</p>
<p>【議長】</p>	<p>ありがとうございました。その他、ご意見ございませんでしょうか。</p>
<p>【委員】</p>	<p>保護者の方との話す中で、学力学習調査の目標に学年が上がるにつれて達成できていない結果がスマートフォンの使用に関連している可能性があるのではないかと感じています。中学生になるとスマートフォンを持つようになり、学習時間に集中力が低下していると保護者も感じていると思いますが、現状はなかなか注意できない状況にあります。実際に保護者からスマートフォンの使用に関する問題を聞くこともあり、保護者への周知が重要だと感じています。今は教科書にQRコードが載ったり、調べ学習に活用することもあるため、手放すことは難しいと思いますので、家庭と学校の連携で適切な使用方法を見つけ学力の向上に繋</p>

	<p>げられたらと思います。また、他の学校で学力調査の結果が上昇しているところの取り組みについても知りたいと思いました。</p>
【議長】	<p>ありがとうございました。他にご意見はございませんでしょうか。</p>
【委員】	<p>学力調査の結果から基礎の定着が課題であり、特に正答率が低い学年や教科があることを懸念しています。学力の向上は一朝一夕に行くものではなく、学力調査そのものが正答率を上げることだけが目的ではありませんが、他の委員さんと同様に家庭学習の充実が重要であると感じています。学校では一生懸命学習意欲の向上を図るための取り組みをされていますが、保護者がどれくらいの認識であるのか、効果的に伝わっているかについても懸念するものです。今年はプロジェクトチームや委員会が立ち上げられていますので、その成果も期待しています。</p>
【議長】	<p>ありがとうございました。他にございませんでしょうか。</p>
【委員】	<p>小学校の時から様々な取組が必要だと思います。学習リーダーを中心とした児童生徒自らが積極的に発表発言をする機会は大切だと思います。将来を考えると企業では3つのスキル（人間力、発想力、企画力）をもった人材が求められるようになると思います。特に自己主張やコミュニケーション能力も含めた「人間力」が重視されていくと思うので、家庭教育や学校教育でも、これらのスキルを育むための取組が必要だと思います。</p>
【議長】	<p>ありがとうございました。教育長のほうからはいかがでしょうか。</p>
【教育長】	<p>学習に向かう力は、現在取り組んでいる ESD や主体的に取り組みが根底と考えます。様々な活動を通じて学習に繋げていく、そのことで学習意欲が高まったり、学習の必要性に駆られたりすることで、将来企業が求める人材育成にもなると考えます。また、市も SDGs の取り組みを行っており、それと関連付けした取組と家庭学習を親子で考える時間の必要性を感じており、今後は親子で家庭での過ごし方やタイムテーブルを考える時間を作り、どう改善していくか PTA と連携して取り組んでいきたいと思っています。</p>
【議長】	<p>ありがとうございました。それではいろいろな意見をいただいたようでございまして特に家庭学習の重要性、それからみずから考える力を養っていく、そのためには SDGs も重要ではないかと、また親子でよく考える習慣、工夫を少し試してみるというようなお話だったかと思います。まだご意見あるかと思いますが、時間の関係もありますので、次に移らせていただきたいと思います。</p> <p>それでは2番目に体力に関して、それでは事務局より説明をお願いします。</p>
【事務局】	<p>「体力」について説明</p>
【議長】	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、各委員さんのご意見を伺いたいと思います。</p>
【委員】	<p>菊池の子ども達は、スポーツを頑張って、様々な大会で優勝や全国大会に出場していることからわかるように体力はあるのだと思います。文部科学省も言っていると思いますが、よく食べ、よく動き、よく眠るという三つのポイントを家庭や学校で徹底することが重要であると思います。体育の授業では、タブレットや動画を活用してフォームの矯正などを行うことで、体力向上を図ることができ</p>

	<p>ると思います。小学生の時は花房小学校のように子どもたちが楽しみながら体力をつけるための取組や、キクロスカレッジマイスターの活動など様々なスポーツを経験する機会を提供することも重要だと思います。そういった経験をもとに、中学生になって子ども達が自分の適性や興味に合わせてスポーツを選択することができるのではないかと思います。</p>
【議長】	<p>ありがとうございました。他にご意見ございますか。</p>
【委員】	<p>一番気になることは、肥満傾向の子どもが増えていることです。背景としては、外で遊ぶ機会が減っていることや、子ども達が家でゲームをすることが多いことだと思います。肥満が続くと、成人になっても運動に親しむことが難しくなり、地域でスポーツ交流を図りながら活動するような子どもが育ってほしいと思いますが、心配しているところです。気持ちとしては、全校体育で取り組むことが理想だと思いますが、現実的には難しく、先生方が自主的に昼休みに取組を行っているのが現状だと思いますので、子ども達でルール作りをして遊ぶなどといった活動が増えると良いなと思っています。</p>
【議長】	<p>ありがとうございました。他にございませんでしょうか。</p>
【委員】	<p>体力面では、学力に比べて劣っているわけではありませんが、一部の生徒たちには体力の不安があると感じています。一部の学校で成果が出ている一方で、学校間の格差も目立っています。学校の格差の原因はわかりませんが、基礎体力を高める地道な取り組みが全体の体力向上につながると思います。私は安心安全の日に交差点に立っていますが、半数ぐらい子どもたちを車で送迎していて、徒歩通学していない子どもがいるのを見て、その差がどれくらいかはわかりませんが、基礎体力を高める運動については、保護者の理解を得ながら地道に進めていくことが大事だと思います。</p>
【議長】	<p>ありがとうございました。他にご意見はいかがでしょうか。</p>
【委員】	<p>体力のある学校は、小規模校のほうが多い傾向にあるようですが、それは少人数で指導が充実しているもので、なかなか大きな学校では難しいと思いますが、各学級内で運動の機会を設けることは重要だと思います。小学校では部活動がなくなり、子どもたちの運動の機会が減少し、一部の子ども達は、社会体育のクラブに参加していますが、それは親の送り迎えや家庭環境に左右されるのではないかと思います。昔のように放課後に友達と遊ぶ機会も減少し、家でゲームをする子ども達が増えていると思うので、特に小学校では、旭志小や菊池北小のように社会体育で指導ができるような環境をもっと広げていけたらと思います。</p>
【議長】	<p>ありがとうございました。他にございませんでしょうか。</p>
【委員】	<p>子どもたちの運動する機会が減っていると感じており、夏休みのラジオ体操もなくなっている地域も多くなってきていると思います。子どもたちが外に出る機会が減り、今は良くて今後のために現状を変えていく必要があると感じています。特に走る・飛ぶという基本的な体づくりができていないことに驚きを覚えました。今、縄跳びが苦手な子ども達もいるので、家庭での機会を作れたらと思いますが、保護者の皆さんも仕事が忙しいので、家庭の中で運動の時間を作るのは難しいかもしれませんので、5分でも朝活動の中で縄跳びや運動の機会をするこ</p>

	とで、子ども達も変わっていくのではないかと思います。
【教育長】	今の子ども達は非常に頑張っていますが、課題としては運動の機会が減っていることがあげられます。その対策としては、体力優良校の工夫や取組みを他校に広げていくことが一つ、二つ目が、運動する機会を増やすため、キクロスカレッジのスポーツマイスターを増やして、できれば数年後は全ての小学校で活動できるようにしていきたいと考えています。小学校のうちにいろいろな経験をしていないと中学校にはなかなか難しいのでそういった体制を整えていきたいと考えております。
【議長】	ありがとうございました。特に体を動かす機会をもっと増やしたらどうかという意味では、皆さん意見が一致したということで、それでは次に移らせていただきます。三つ目の「不登校」についてであります。それでは事務局に説明をお願いします。
【事務局】	「不登校」について説明
【議長】	ありがとうございました。それではご意見をお聴きしたいと思います。
【委員】	不登校の理由は様々で、本人が抱える悩みや気持ちよるところが大きく、周りの通っている子ども達はわからないことがほとんどだと思いますが、話を聞いていくと意外と知っていることがあります。子ども達自身がささいな理由で学校に来られなくなる理由として、例えば席替えがいやだったとか、友達とちょっと喧嘩したとか、そういうきっかけを子ども達が知っていることもあり、アンケートで対応してもらっているのですが、その他にも意見箱や先生に伝える場など、子ども達の気持ちが自由に伝えられる場があれば、早期な対応ができ、不登校の減少に繋がっていくのではないかと思います。学校に通っている子どもたちも、不登校の子どもたちの存在が当たり前になってしまっている状況もあるように感じます。もっと子どもたちが学校で一緒に過ごすことが当たり前だという意識になれるような環境が必要だと思っています。
【議長】	ありがとうございました。他にご意見はございませんでしょうか。
【委員】	菊池市ではいじめ不登校対策に関して、関連機関との連携が充実していると思います。早期発見と早期対応の環境を作るために心のアンケートなどを活用して児童生徒の状況を把握する環境づくりも大事だと思います。何においても早めの準備は重要であり、対応策を準備することで焦ったり慌てたりすることを避けられると思います。また、家族とのコミュニケーションも重要であり、保護者が子どもとの会話を通じて学校以外でもサポートいただいて、学校任せにするのではなく、子ども達を家庭で守っていくことが大切だと思います。
【議長】	ありがとうございました。他にございませんでしょうか。
【委員】	菊池市では、専門機関との取組が手厚く行われており、心の寄り所として学校と家庭の繋がりを大切にされていると思います。中学生においても将来の進路に関する相談や指導がしっかり行われており、保護者の頼りにできる存在として感じていますので、これからも充実を図っていただけたらと思います。心のアンケート結果によれば、学級間でいじめを許さない雰囲気は6割程度とのことで、先生方は頑張っておられるのですが、4割程度の子ども達の中には学校へ行くこと

	<p>に不安を感じていることがわかりました。子どもたちが安心して楽しく学校に通うことができる環境が不登校にならない一つの要因であると考えられます。担任の先生は子ども達にとって頼もしい存在であり、保護者も担任に頼りにされていると思います。今回、教師の見取る力を高める研修が進められることはとても良いことだと思います。若い教師たちが多くなっているということもありますが、子どもたちや保護者との接し方を経験することによって、教師としても対応力が向上し、大切なことだと考えますので、この研修をしっかりと進めていただくことを期待しています。</p>
【議長】	<p>ありがとうございました。その他ご意見はありませんでしょうか。</p>
【委員】	<p>先ほどの説明がありましたとおり、七つの対策をされることで良い結果ができることを期待しているところです。他の委員さんもおっしゃられていましたが、多感な時期に些細なことで行きたくなくなることがあります。学校以外にも適応指導教室がありますが、それでも解決できない場合は、子ども達が行ける場所として関係機関との連携を強化し、サポートを受けられるメニューを増やすことが重要だと思います。また、新聞によると保護者の半数以上が社会的な自立を目指すという基本指針を知らないというアンケート結果もあり、基本的な情報を保護者に周知することも必要だと思います。不登校の問題は難しいものですが、菊池市では対策に取り組んでおり、結果が出ることを期待しているところですが、同時にマンネリ化しないように取り組んでいただきたいと思います。</p>
【議長】	<p>ありがとうございました。他にございませんか。</p>
【委員】	<p>不登校の問題はそれぞれ原因や対応が異なり、難しい取組となっています。そのため、不登校を防ぐための事前の取り組みが非常に重要だと思います。菊池市では相談員やスクールソーシャルワーカーなど、様々な手段や措置を講じておられ、個別の子どもたちに対応できる環境を整えておられ本当にありがたいと思っております。このような支援によって、一人でも多くの子ども達が復帰できるようになってほしいと思います。いじめ不登校の問題は最近の話と思っておりましたが、かつて野口英雄さんも火傷が原因でいじめられ、学校に行かなくなった経験がありその際は母親から諭され前向きになって通うことができた話を聞いたことがあります。このことから不登校は昔からあったということがわかります。最近、具体的な統計から不登校問題として認識されるようになったのですが、数も増えていると思います。私が特に気になるのは、不登校の子どもたちが引きこもりになる可能性や、家庭内暴力ではけ口を探す子どもが出てくるのではないかということです。それぞれの子どもたちが何らかの形で生きる力を身につけ、社会に戻り、活躍できる人材になってほしいと思います。</p>
【議長】	<p>ありがとうございました。只今それぞれにご意見をいただきました。教育長のほうからご意見ありますか。</p>
【教育長】	<p>市では不登校対策として、不登校になる前の対応に力を入れています。具体的な取り組みとしては、楽しい授業づくりや自分の意見を発表できる環境の整備、主体的に対話ができる深い学びの促進などを行っています。</p> <p>また、人間関係づくりやいじめを許さない雰囲気や学級づくりについても教師</p>

	<p>の研修を通じてソーシャルスキルトレーニングやカウンセリングマインドの向上を図り、子ども同士をつなげるための取り組みを継続して行っています。また、適応指導教室の先生方にはアウトリーチという形で、登校が困難な子ども達のサポートのために家庭訪問を実施しています。</p> <p>さらに、相談員や専門機関、担任教師などによる相談体制の充実を図っていきたいと考えております。</p>
【議長】	<p>ありがとうございました。様々なご意見をいただきました。</p> <p>気軽に意見を出せるような場づくりとか、意見箱とかあるいは家庭内の対話が必要であろうと、今の取り組みについては他と比較しても充実しているということであったかと思えます。</p> <p>時間の関係もありまして必ずしも十分な時間じゃなかったかもしれませんが3つのテーマについて、今説明を受けて伺ったところでございます。第1の議題につきましては、以上とさせていただきます。</p> <p>それでは次に議題の2でその他ということですけども事務局からは何かありますでしょうか。</p>
【事務局】	<p>特にございません。</p>
【議長】	<p>それでは、進行を事務局にお返しします。</p>